

阿南 ぶらりまち紀行

ふるさと「阿南市」のすばらしい魅力を再発見!

～地域の輝き～

第88回



橘たたら音頭保存会 (橘町)



佐田神社例祭で歌う故池添さん(右)

「エイ、エイサツサ、エイトサツサ」大漁旗が秋風にたなびく港町に、音頭取りの美声と拍子木の名調子が鳴り響く。祭り歌として代々歌い継がれてきた「たたら音頭」。その普及・伝承に尽くした故池添 覚師匠の思いを今に伝えようと、「橘たたら音頭保存会」の皆さんが祭りに一興を添えている。

けんかだんじりで知られる橘海正八幡神社例祭では、お旅所やだんじり巡行で「たたら音頭」や「御船歌」などが歌われている。たたら音頭は、鉄や銅の精錬や鑄造の際に歌われていた労働歌が芸能化したもの。浄瑠璃から題材を得たものやくどきから出た文句が多く読み込まれ、阿波ならではの祭り歌として人々に親しまれてきた。しかし、戦後に衰退。今では橘町、桑野町、吉野川市鴨島町の保存会だけとなっている。阿波藩の参勤交代の際に歌われた「御船歌」にあつては、橘町で見ることができない歴史的・文化的に貴重な歌とされる。ただ、このことは意外と知られていない。



橘小学校の児童の皆さんが、たたら音頭、くどき音頭を体験するようす (10月22日・橘公民館)

11人の先頭に立って祭り歌の保存活動に力を入れているのが会長の計盛幸雄さん(67歳)。総代会や学校、公民館などに働きかけ、その魅力を伝えている。

「昔は日常的に歌われていましたが、その歌詞の多くは古典的で、若者からは敬遠されがちです。ならば、現代風に改作してみてもどうか、などと模索の日々が続いています。時代は変われど祭りに歌はつきもの。お年寄り、若者、子どもが輪になって祭り歌を楽しむ、素朴で温かい風景を残していきたいですね」

民俗芸能に詳しい徳島大学大学院教授の高橋晋一さんも後押しする。「50もの歌が継承されている地域は比類がありません。保存会は記録の伝承者です。ここにしかない貴重な文化であることを再認識して、伝え広め、地域の誇りとして大切に受け継いでいってほしいです」

計盛さんはこんな夢を抱いている。たたら音頭を阿波踊り、人形浄瑠璃、阿波藍、第九に次ぐ徳島5大文化にしたいと。天国の池添さんも望むところだろう。